

## 平成17年度の耐震診断結果

岩沼北中学校	体育館(1018m <sup>2</sup> )	
耐震判定指標	1階	
I s値(X方向)梁間方向	0.588	
I s値(Y方向)桁方向	0.785	

昭和39年3月建築、平成元年2月大規模改造工事実施。

I s値は、0.7以上が基準となる。

I s値:耐震判定指標

鉄骨造平屋建ての屋内運動場で、骨組形式は、X方向がラーメン架構、Y方向がブレース架構となっている。

梁間方向は、倒壊の危険性があるので大梁端部の継手の補強を行う。

現地調査の目視で屋根ブレースのリベット欠落部分とぶどう棚を吊っている間柱の補強も行う。

耐震補強工事費11,340,000円(平成18年度施工)

岩沼小学校	体育館(1300m <sup>2</sup> )	
耐震判定指標	1階	2階
I s値(X方向)梁間方向	4.284	0.38
I s値(Y方向)桁方向	14.255	1.85

1層鉄筋コンクリート造、2層鉄骨造

X方向

S造ブレースの補強が必要である。

補強方法は、ブレース増設により強度向上型の補強が適切であり、既存のブレースを2L-75\*75\*6と架け替えて

ガセットプレート、HTBも変更することで規定の耐震性能が確保できる。補強ブレースを有効に働かせるために

は、屋根の水平剛性の確保が重要であり、水平ブレースも同時に架け替えが必要となる。

耐震補強工事費6,300,000円(平成18年度施工)

玉浦小学校	校舎(3620m <sup>2</sup> )		
耐震判定指標	1階	2階	3階
I s値(X方向)梁間方向	0.993	0.85	1.652
I s値(Y方向)桁方向	1.715	1.952	3.779

耐震診断の結果は、X方向、Y方向の全階とも耐震判定指標を満足している。

体育館は平成12年度建設施工(工事費345,372,300円)

## 平成17年度の耐震診断結果

岩沼中学校	体育館(1073m <sup>2</sup> )	
耐震判定指標	1階	2階
I s値(X方向) 梁間方向	2.26	0.13
I s値(Y方向) 桁方向	1.46	0.37

昭和42年2月建築、平成2年1月大規模改造工事実施。

耐震性に疑問があり、建替えが望ましい。

平成19年度建替工事(建設費449,784,300円)

岩沼中学校	東校舎(1076m <sup>2</sup> )			
耐震判定指標	1階	2階	3階	4階
I s値(X方向) 梁間方向	0.63	0.65	0.85	1.62
I s値(Y方向) 桁方向	1.31	1.74	2.3	4.37

耐震判定指標を満足していない。

平成18年度補強工事(工事費16,065,000円)

岩沼南小学校	校舎A(3231㎡)			校舎B(662㎡)			校舎C(1835㎡)			体育館(1200㎡)	
	1階	2階	3階	1階	2階	3階	1階	2階	3階	1階	2階
耐震判定指標	0.72	0.79	1.24	0.7	1	1.77	0.72	0.82	1.14	2.07	0.33
Is値(X方向)	0.72	0.79	1.24	0.7	1	1.77	0.72	0.82	1.14	2.07	0.33
Is値(Y方向)	1.5	1.75	3.22	2.26	1.61	3.16	1.4	1.86	3.12	3.3	1.08

Is値は、0.7以上が基準となる。

Is値:耐震判定指標

体育館は平成18年度補強工事(工事費1,470,000円)

岩沼西小学校	北校舎(1266㎡)			南校舎①(1530㎡)			南校舎②(888㎡)			渡り廊下(147㎡)			体育館(1001㎡)	
	1階	2階	3階	1階	2階	3階	1階	2階	3階	1階	2階	3階	1階	2階
耐震判定指標	0.973	0.865	1.53	0.664	0.737	0.827	0.582	0.664	1.26	0.54	0.54	0.55	0.79	0.97
Is値(X方向)	0.973	0.865	1.53	0.664	0.737	0.827	0.582	0.664	1.26	0.54	0.54	0.55	0.79	0.97
補強後				0.786			0.806	0.813		0.79	0.79	0.8		
Is値(Y方向)	1.594	1.708	2.977	1.258	1.475	2.875	1.902	2.137	3.731	0.31	0.31	0.31	1.31	-

北校舎:必要な耐震性能を満足しており補強の必要はない。

南校舎①:補強は桁行き方向の1階について耐力の増加が期待できる壁を増設する補強が適している。

南校舎②:補強は耐力の不足している桁行き方向の1・2階で必要となる。補強する場合においては上下階の剛性に留意しながら、耐震壁の配置計画が必要になる。

渡り廊下:各階で耐力が不足している結果となったため、補強が必要である。補強については、柱梁接合部の耐力増加及び床プレースの改修、床面の改修等が必要である。

体育館:必要な耐震性能を満足しており補強の必要はない。しかし、外部に面しているプレース材などには点錆が多く発生していることから、塗装などの改修が必要である。

校舎は平成18年度補強工事(工事費27,300,000円)

西中 昭和60年度校舎建設、昭和61年度に体育館建設

玉中 平成10年度校舎および体育館建設